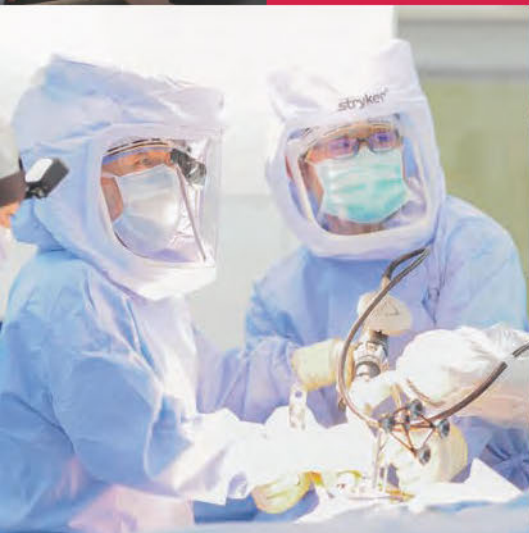




Your smiles, our happiness.

Yonemori Hospital



一秒を救う。一生につなぐ。

南北600km。広い鹿児島で、
医療現場はつねに「救急」という課題をかかえていました。

足りないものは、つくるしかない。

1969年鹿児島市に開院して以来、
整形外科の専門医療機関として地域に根ざしてきた私たちができること。
それは救急科と整形外科の、ふたつを叶える専門病院。
2014年の同市与次郎ヶ浜への移転を機に救急科にも注力し、
ふたつの科を高度に統合した世界水準のあたらしい医療の実現へ、
新たなスタートをきりました。

さらには脳神経外科、循環器内科、心臓血管外科といった診療科の拡充と、
回復期リハビリテーション機能の一層の充実化により、
私たちはより多くの方の人生と向き合うことになりました。

一秒をあらそう命も、まもりたい。
一生につながる笑顔も、まもりたい。

命を救うだけで終わらせるのではなく、
その方らしい生活が送れるようになるまで寄り添う病院へ。

「何の専門病院ですか」と聞かれたら、私たちはこう答えます。
命と人生に向き合う、専門病院です。

理事長

半藤公何



JA99KG

YONEMORI HOSPITAL

YONEMORI
EMERGENCY
SERVICE



患者さま・ご利用者さまの笑顔のために 切れ目のない医療・介護体制

1969年に「米盛整形外科医院」を開院して以来、地域に根ざした医療活動を展開してまいりました。

1981年に法人化し、1990年代後半に

まるにえ介護老人保健施設・マロニエ訪問看護ステーション「護国」・居宅介護支援事業所を開設し、医療から介護まで一貫して提供できる体制を整えてまいりました。

そして米盛病院の移転(2014年)以降、診療科の拡充とともに、当法人の事業所はもちろん、

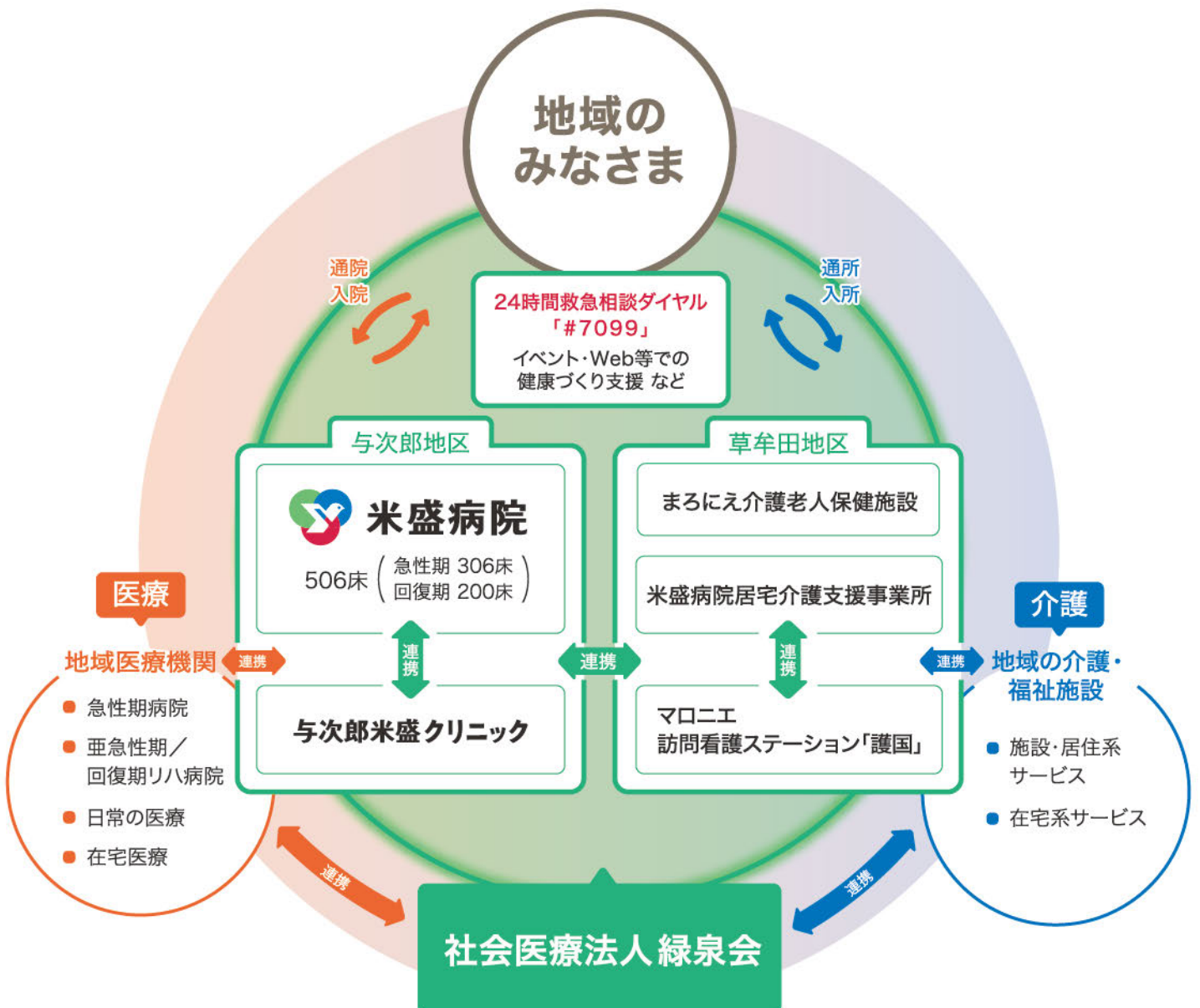
近隣の医療機関、介護・福祉施設等とのさらなる連携を深めながら、

患者さまの診療・手術・回復までの治療、退院後の長期にわたる見守りを行っております。

これからも、各事業所と手を取り合いながら、シームレスかつ一貫性のある医療・介護体制で、

患者さま・ご利用者さまお一人おひとりに寄り添った医療・介護サービスの提供に努めてまいります。

すべては、患者さま・ご利用者さまとご家族の幸せな笑顔のために。



与次郎米盛クリニック

2022年4月に「整形外科 米盛草牟田クリニック」を米盛病院前に移転し、新たに「与次郎米盛クリニック」として開院しました。

米盛病院との連携をより一層強化し、主に初診患者さまの診療を行います。クリニックでは、整形外科外来、総合診療科外来および循環器外来を開設。必要に応じて米盛病院で検査・治療等を行います。

また、充実した人員、設備で外来リハビリテーションにも注力します。

米盛病院との緊密な連携により、患者さまが安心して日常生活を送れるようになるまでしっかりサポートいたします。

外来診療 整形外科/総合診療科/循環器外来/リハビリテーション



まろにえ介護老人保健施設

介護を必要とする高齢者の方の自立を支援し、療養・訓練を行いながら、ご家庭への復帰を目指しています。リハビリテーションはもちろん、日常生活に関するサービスも提供しています。また、短期の入所サービスも提供しており、ご家族の介護負担の軽減にもつながるよう努めています。

ご利用いただける方

- 介護を必要とする高齢者の方で療養・訓練を行いながら家庭生活への復帰をめざしている方
- 入院治療の必要性はないが、日常生活を一人で送るのが困難な方
- 運動機能障害でリハビリテーションが必要な方
- 要介護認定1以上を受けている方(入所)
- 要支援認定1以上を受けている方(ショートステイ・デイケア)

※認定を受けてない方はお近くの地域包括支援センターまたは居宅介護支援事業所にご相談下さい。

定員

- 入所 …… 70名
- 通所 …… 80名



マロニエ訪問看護ステーション「護国」

在宅での介護が心配な方や、退院後の生活に不安がある方に対して、看護師やリハビリスタッフがご家庭を訪問し、支援を行っています。住み慣れたご自宅での介護を、安心してスムーズに行うため、自宅介護の様々な問題を一緒に考え、小さな気づきも見逃さないよう、ご家族とのコミュニケーションを大切にしています。

事業内容

- 訪問看護
 - 住み慣れたご家庭で、安心して介護が受けられます。
 - 病状観察 ● カテーテル等の管理 ● ターミナルケア(終末看護)
 - 洗髪・清拭・入浴などの援助 ● 床ずれ処置 ● リハビリテーション
 - ご家族への療養上の指導及び援助 ● かかりつけ医、他事業所との連携
 - 訪問リハビリテーション
 - ご自宅で理学療法士・作業療法士によるリハビリテーションを行います。
 - リハビリテーション ● 上下肢筋力増強訓練 ● 歩行訓練等
 - かかりつけ医への報告 ● 上下肢関節可動域訓練 ● 起立訓練 ● 病状観察
- ※訪問リハビリは、介護保険適用の場合と医療保険適用場合があります。詳しくは、担当者にご相談下さい。



米盛病院 居宅介護支援事業所

在宅生活での不安や、介護保険サービスの利用など、お一人おひとりの状態に応じて、ご相談を受け付けております。ケアマネジャーが、介護認定の申請代行をはじめ、ご本人とご家族の要望をもとに、ケアプランを作成します。それぞれのサービスの適性評価や、ニーズの変化、ご利用者の状況に応じたプランの変更も柔軟に行い、「かかりつけの相談所」としてご利用いただいています。

事業内容

- 在宅療養に関するご相談
 - 介護の内容(リハビリテーション・ヘルパーを使いたいなど)
 - 介護保険(内容・手続きについて知りたいなど)
 - 住宅改修(手すりをつけたいなど)
 - 福祉用具の購入・レンタル(ベッドを借りたいなど)
- 介護認定の代行申請
- 介護保険で受けられるサービスについてケアプランの作成

命と人生に向き合う専門病院として 命を救い、その方らしい生活が送れるようになるまで寄り添うために

～米盛病院の特徴的な取り組み～

命に直結する救急医療

2014年の病院移転を機に、救急科と整形外科を高度に統合した、世界水準の救急医療の提供を目指して新たなスタートをきりました。さらに、これまで得意としてきた救急外傷の治療に加えて、命に直結する救急疾患に対応するため、脳神経外科、循環器内科、心臓血管外科・血管外科などの診療科を拡充し、医療スタッフおよび施設・設備の充実化、医療技術・サービスの質の向上に努めてまいりました。

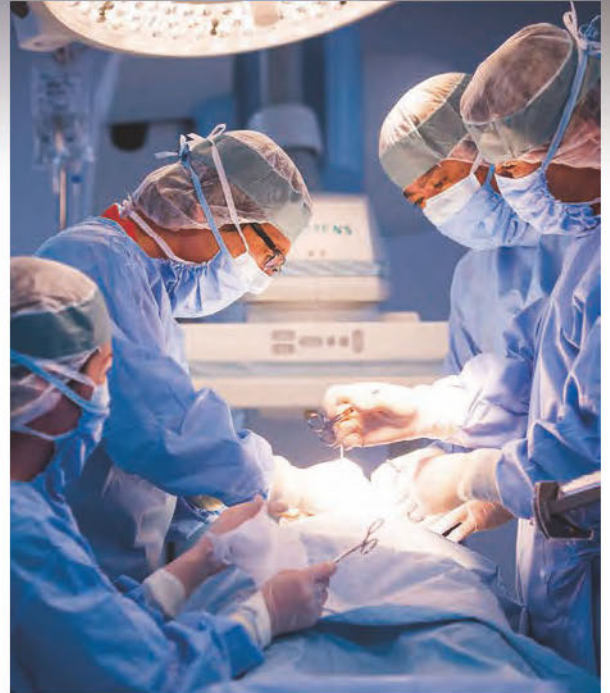
24時間365日、命を救う専門病院であり続けるため、これからも職員一丸となって研鑽をしていきます。

プレホスピタル活動

南北約600kmに及び、多くの有人離島を有する上、陸地は湾で隔てられている鹿児島県の特徴は、救急医療に不利といえます。

治療までの時間を短縮するために、民間救急ヘリ「Red Wing」、ドクターカーで早く駆けつけて治療を始める「病院前救護」(プレホスピタル)の体制充実を図ってきました。

県内医療機関、消防機関との緊密な連携により、機動力を活かした救急活動を実践し、地域の救急医療に貢献していきます。



24時間救急相談ダイヤル「#7099」

地域の方々が急なケガや体調不良で判断に迷われた際、24時間365日体制で救急救命士が対応する当院独自の電話相談窓口を開設しています。

1日あたり40件前後、年間15,000件以上のご相談を受けており、地域の方々の不安に寄り添う相談窓口として機能しています。



災害医療への取り組み

大規模災害が発生した際に24時間緊急対応が可能な病院として、災害拠点病院の指定を受けています。災害派遣医療チームDMATを2チーム有し、DMATカーを活用して各地の災害現場で医療救護活動をしています。災害時に傷病者の収容や、各地から派遣されたドクターヘリの受け入れおよび防災ヘリの燃料補給地点として当院設備の活用を想定し、不測の事態に備えています。



- 鹿児島県災害派遣医療チーム(鹿児島県DMAT)指定病院
2015年10月「鹿児島県災害派遣医療チーム(鹿児島県DMAT)指定病院」に指定されました。
- 鹿児島県災害拠点(地域災害医療センター)病院
2016年4月「鹿児島県災害拠点(地域災害医療センター)病院」に指定されました。



リハビリテーション

超急性期から回復期、生活期、外来までの一貫したリハビリを提供できる体制を整えています。

ICUやHCU入室時から早期離床を図り、活動性の低下に伴う関節可動域制限、筋力低下などを予防し、歩行能力や社会生活能力の獲得により早期社会復帰を目指します。

急性期治療後には、多職種協働で退院後の生活を見据えた集中的なリハビリを行い、社会生活能力の向上により在宅復帰を目指します。飲み込む機能が低下している患者さまに対しても専門的な摂食嚥下訓練を行っています。

また、法人内の介護老人保健施設やクリニックとも連携し、生活期のリハビリや外来でのリハビリも実施しています。



チーム医療

米盛病院では、部署や職種の壁を越えたチーム医療が院内のいたるところで展開されています。たとえばICT(感染対策チーム)やNST(栄養サポートチーム)、骨粗鬆症リエゾンサービス委員会、褥瘡対策委員会などをはじめ、様々な職種のスタッフが一体となって組織横断的なチームを形成しています。病棟ラウンドなどを通じてチーム全体で患者さまの状態を共有、それぞれの専門領域から意見を出し合い、医療の質の向上に努めています。



国際医療への取り組み

- 「外国人患者受入れ医療機関認証制度」認証
- 「医療通訳拠点病院」選定
- 「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」選定

多言語に対応できる国際交流課の通訳者が主に受診をサポートし、20言語への対応が可能な医療通訳タブレットも活用することで、外国人患者さまの診療におけるコミュニケーションを支援しています。

医療の国際化への取り組みが認められ、全国で初めてとなる外国人患者受入れ病院(JMIP)として認定。さらには医療受診を目的とする訪日外国人の受け入れ体制を備えた病院として、ジャパン インターナショナル ホスピタルズ(JIH)の推奨認定を受けています。



一秒を救う。一生につなぐ。 「米盛病院コンセプト」を実現する専門性の高い診療科群

～主な診療科～

救急科

ハイブリッドERを備えた、
救急医療のフロンティア

当院の救急医療のコンセプト「YES」は「YONEMORI EMERGENCY SERVICE (米盛救急サービス)」の頭文字。いつでも、どんな患者さまでも「Yes! (はい)」と受け入れるという思いが込められています。救急搬送受け入れ件数は年間6,500件以上と非常に多く、ハイブリッドERに代表される先進的な設備、民間救急ヘリ「Red Wing」やドクターカーなどを駆使し、充実した医療スタッフが多種多様な症例に対応しています。



ハートチーム

循環器内科(虚血部門)

心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患の患者さまに対し、カテーテルを駆使した治療や検査を行っています。心筋梗塞においては、約9割の患者さまに病院到着から60分以内(目標時間90分*)の血流再開に成功しています。

※日本循環器学会ガイドラインより

循環器内科(不整脈部門)

不整脈の患者さまには、個々の症状などに応じて薬物治療やカテーテルアブレーション治療、デバイス治療、外科的治療など幅広い治療を行っています。カテーテルアブレーション治療では3Dマッピングシステムを用いて、治療の精度向上と患者さまの負担軽減を実現し、年間約200例の治療を行っています。

心臓血管外科・血管外科

心臓弁膜症や虚血性心疾患については、弁形成術・弁置換術や冠動脈バイパス術を行っています。大動脈瘤や大動脈解離といった大動脈疾患については、人工血管置換術のほか低侵襲のカテーテル治療



であるステントグラフト内挿術を実施しています。また、末梢血管疾患については閉塞性動脈硬化症に対するバイパス術や血管内治療、下肢静脈瘤に対するレーザー治療やストリッピング術なども行っています。

消化器内科



逆流性食道炎や慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、総胆管結石、大腸ポリープなどの疾患に対応しています。大腸ポリープの切除や総胆管結石の除去など、内視鏡を使った治療も行っております。また、急性膵炎や急性胆管炎などの救急患者様にも対応します。

外科・消化器外科・内視鏡外科



重症度に関係なく、けがなどの「外傷」から、急性腹症などの「内因性疾患」まで幅広く、24時間365日対応をしています。ご高齢の方など、開腹手術が困難と思われるケースであっても、患者様・ご家族が希望され、かつ適応があれば腹腔鏡手術を行います。

形成外科

事故や手術、先天的に顔や身体に生じた変形を、本来の形態・機能により近づけていく診療科です。

顔面外傷、四肢外傷、手指切断、熱傷などの急性期治療から、ほくろや傷痕、眼瞼下垂、わきがや巻き爪などの症状にも対応します。



麻酔科

麻酔法として、全身麻酔、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、超音波ガイド下末梢神経ブロックの中から、手術による侵襲を最大限防ぎ得る適切な方法を選択して行います。麻酔科管理症例数約4,000症例(2023年度)と年々増加する手術へ対応しています。





整形外科

あらゆるケースに対応する、
理想の整形外科へ

各種疾患に対し、関節グループ、外傷グループ、脊椎グループ、一般整形グループの計4グループがそれぞれ高い専門性を活かした診療を行っています。

ハイブリッド手術室や、ロボティックアーム手術支援システム「Mako(メイコー)」など、先進設備を用い、年間約4,600件という、九州はもとより全国的に見てもトップクラスの手術実績を誇ります。

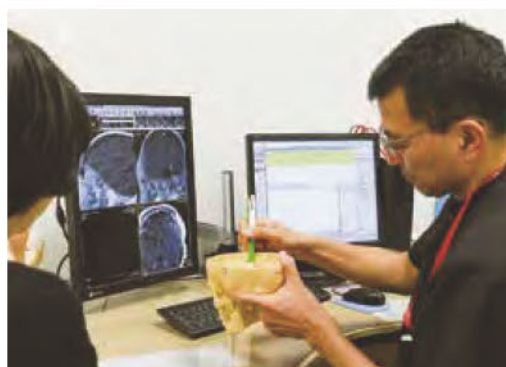
手術のみならず、回復期リハビリテーション病棟や与次郎米盛クリニックで、回復期から生活期まで、充実したリハビリテーションを提供しています。

脳神経外科

脳卒中、頭部外傷の診療を柱とし、頭痛やめまい、ふらつき、顔面の痛みやびくつきなどの日常的な症状から、緊急を要する疾患や脳腫瘍まで対応可能な体制を整えています。

超急性期脳梗塞治療ではチームで迅速に対応。患者さまが到着してからt-PA静注療法(静注血栓溶解療法)開始まで30分以内、脳血管内治療開始まで60分以内という目標を2020年に達成。2022年には、日本脳卒中学会より「一次脳卒中センターコア施設」の認定を受けました(鹿児島県内で4施設のみ*)。

※2024年3月31日時点



総合診療科

「身体の不調はあるけれど、どの診療科を受診すれば良いかわからない」「検査では異常は見つからなかったけれど、気になる症状が続いている」など、受診先選びに迷われたり、受診をためらったりされている方の診療を行います。

また、地域医療機関にて診断が難しい患者さまの紹介を受け入れ、検査・診断・治療を行います。



呼吸器内科



呼吸器系の内科疾患の患者さまを幅広く診療します。主な対象疾患は、慢性的な呼吸器疾患(間質性肺炎やぜんそく、COPD、慢性気管支炎など)、および呼吸器感染症(肺炎や上気道炎、下気道炎など)です。各種画像検査や気管支鏡検査、呼吸器リハビリなども行います。

集中治療科



当ICUは、救急科、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、外科、整形外科など全診療科の重症患者の治療を、集中治療医を中心に、各診療科医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士など多職種医療スタッフが力を合わせたチーム医療を行っています。

内科・リウマチ科

リウマチ科では関節の腫れ・痛み・こわばり、手指の変形、関節リウマチ、膠原病(皮膚筋炎、強皮症、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群)などの診療を行っています。また、内科は主に入院患者さまのケアを担当しています。



胎児診断外来・遺伝カウンセリング外来

高齢妊娠、遺伝性疾患などで悩んでいる方に対して、胎児疾患や遺伝にまつわるさまざまな相談に対応しています。遺伝に関する正しい知識を持っていただき、検査の選択、そして結果説明まで、一人ひとりに合った遺伝カウンセリングを行っています。



将来を見据えた規模と先進性を持った医療設備

Hybrid-ER

初期治療から緊急手術までに必要な様々な機器を集約した救急室です。血管造影装置やCT、手術台の機能も併せ持っています。国内の導入施設は約20箇所しかありません。このシステムにより、救急の患者さまを各検査室に運ぶ時間的ロスと、患者さまの身体的負担を減らすことが可能になりました。



ハイブリッドER(1F)

Hybrid-OR

手術と、血管造影およびCTの検査を同時並行し、ナビゲーション手術を可能とする機能を備えています。手術に関して時間の短縮、患者さまの負担の軽減、治療精度の向上などのメリットが期待できます。



ハイブリッドOR [血管造影装置] (2F)



ハイブリッドOR [CT] (2F)

ロボティックアーム手術支援システム Mako (メイコー)

Makoは人工関節置換術における手術操作を支援するためのシステムです。

術前にCT検査データから作成した手術計画をもとにロボティックアームを操作して骨を削り、人工関節の設置を行います。従来以上に安全かつ人工関節の設置精度向上が期待できます。



手術室(2F)

ICU

患者さま・ご家族のプライバシーに配慮し10床全て個室となっています。また、10床のうち2床は陰圧対応となっています。

手術室と隣接しているため、術後の患者さまが短い動線で直接入室することができ、患者さまの負担軽減に繋がります。



2F

血管造影装置

カテーテルを血管内に挿入し造影剤を注入することで、X線により血管の様子をみる事ができる装置です。

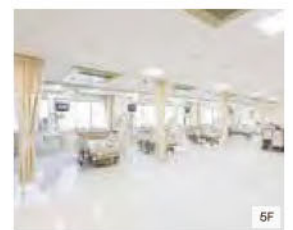
当院では、血管撮影室(2室)、Hybrid-ERおよびHybrid-ORにそれぞれ導入されており、1秒でも早い治療が望まれる脳梗塞やくも膜下出血、心筋梗塞などに対して迅速な治療を行えるようフレキシブルに装置を活用しています。



血管撮影室(1F)

HCU

東棟4階・5階は救急病棟です。HCUはそれぞれの階に8床ずつ(計16床)設置されています。



5F

MRI



1F

CT



1F

RI



1F

X線骨密度測定装置



1F

「出かけていく」救急医療を可能にする 国内有数の機動力



民間救急ヘリ「Red Wing」

鹿児島県との協定により、鹿児島県ドクターヘリに重複要請があった際や、多数傷病者事案の際、消防要請により正式なドクターヘリとして補充活動を行います。

また、離島を含む遠方の医療機関からのご依頼に応じて、陸路・海路での長距離搬送が困難な患者さまの搬送を行う民間救急ヘリとしての役割を担います。

民間の医療機関が保有する救急ヘリは全国で2例しかなく、公的なドクターヘリを補充する役割を持つのは全国で「Red Wing」のみです。



ヘリ格納庫(10F)



ヘリポート(10F)

DMATカー

DMATカーは被災地での活動支援に特化した専用車両です。

従来、被災地での活動に必要な医療機材や薬剤、チームで消費する水や食料等の運搬に当院所有の救急車や乗用車を使用していましたが、大量の資機材の搬送に不向きでした。そこで資機材に加えて発電機、通信アンテナ、無線機を備える支援活動に特化したDMATカーを導入することで、スムーズに被災地へ向かえるようになりました。

本格的な専用車両の導入は九州地区の医療機関では当院が初でした。



ドクターカー (高規格救急車)

119番通報を受けた消防からの要請を受けて出動します。救急車タイプのドクターカーで、医師や看護師だけでなく、患者さまも同乗できるので処置を行いながら医療機関へ搬送することが可能です。



ドクターカー (ラピッドレスポンスカー)

119番通報を受けた消防からの要請を受けて出動します。日中だけでなくヘリが飛べない悪天候時や夜間、明け方などにも活動しています。医師、看護師など医療従事者を救急現場へ運ぶタイプの車両です。

充実した医療スタッフ

救急科には14名の医師が所属しており^(*)、救急外来やICUなど院内の救急医療を担うとともに、Red Wingやドクターカーでのプレホスピタル活動に従事しています。医師だけでなく看護師や救急救命士などさまざまなスタッフが連携し、ハイブリッドERやRed Wing、ドクターカーなどの設備・車両等を駆使して「一秒を救う」ための救急医療を支えています。

(*) 2024年4月時点。他科兼務の医師含む。

























目指したのは、気持ちがやわらぐ心地よさ。

くつろげる空間とサービスで、少しでも患者さまとご家族の心配や不安をやわらげたい。

入院生活を、少しでも快適に過ごしていただきたい。

ふと、病院にいることを忘れてしまいそうな心地よい空間づくりを心掛けています。

米盛病院
東棟

1F					
	エントランス	外来待合	ファミリーマート (7:00~21:00)	シアトルズベストコーヒー (8:00~19:00)	
					
	救急調整室	救急外来	米盛ラーニングセンター 講堂		
2F					
	手術室	ICU	手術待合室		
	3F				
職員用食堂		米盛ラーニングセンター シミュレーションルーム(病室)	米盛ラーニングセンター シミュレーションルーム(手術室)	米盛ラーニングセンター 講義室	
4F				4・5F	
		リハビリテーション庭園 そらにわ			
4-8F 病棟					
	4床室	2床室	1床室	ラウンジ	
		10F			
			リハビリテーション室	ヘリポート・格納庫	

米盛病院 西棟



与次郎米盛クリニック





地域に根づいた人財を育てる、体験型のラーニングセンター

ラーニングセンター

どれだけ最先端の医療機器や環境に恵まれていようと、医療を支える「人」がいなければ、意味がありません。

未来の医療を担っていく人財を育て、充実した医療提供につなげるために、すべての医療従事者が、体験型の学習を実践できる場、それが私たちのラーニングセンターです。

約270席の座席を備える講堂、シミュレーション機器が豊富で様々なトレーニングが可能なシミュレーションルーム2室、用途に応じて最適なレイアウトが可能な8室の講義室などの充実した設備と、効果的なトレーニング方法や評価の仕方を共に考え、学習者にとって楽しく、達成感と満足感を得ることができるような興味を引く教育プログラムをデザインする「学習システム室」のスタッフが、教育による医療の質の向上を実現しています。



シミュレーションルーム(病室)(3F)



シミュレーションルーム(手術室)(3F)



講義室(3F)



講堂(1F)



講堂(座席収納)(1F)



ホワイエ(3F)


緑泉会の歩み

- 昭和
 - 1969 昭和44年12月 米盛整形外科医院開院

 - 1977 昭和52年 7月 「米盛整形外科病院」に名称変更
 - 1979 昭和54年 8月 「整形外科米盛病院」に名称変更
 - 1981 昭和56年 4月 医療法人緑泉会
整形外科米盛病院 改組
 - 1982 昭和57年 5月 新館竣工開院

- 平成
 - 1998 平成10年 5月 「まるにえ介護老人保健施設」開設
 - 6月 「まるにえリハビリテーションクリニック」開院
 - 1999 平成11年 4月 「マロニエ訪問看護ステーション『護国』」開設
 - 10月 「指定居宅介護支援事業所」開設
 - 2000 平成12年12月 病院機能評価認定(一般A)取得
 - 2005 平成17年 5月 まるにえリハビリテーションクリニック 移転・開院
 - 2007 平成19年 2月 Our Credo(クレド)制定
 - 2009 平成21年 4月 社会医療法人認定
 - 2011 平成23年 7月 中国リハビリテーション研究センターと学術交流提携
 - 2012 平成24年 5月 「整形外科米盛中央駅クリニック」開院
 - 7月 ドクターカー運用開始
 - 2013 平成25年 3月 「外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)」認証
 - 2014 平成26年 4月 整形外科米盛病院を「米盛病院」に名称変更
 - 2014 平成26年 9月 米盛病院移転・開院

 - 10月 「鹿児島県ドクターヘリ補完ヘリの救急患者搬送に関する協定」運用開始

 - 2015 平成27年 8月 まるにえリハビリテーションクリニックを「整形外科米盛草牟田クリニック」に名称変更
 - 平成27年10月 「鹿児島県災害派遣医療チーム(鹿児島県DMAT)指定病院」指定
 - 2016 平成28年 4月 「鹿児島県災害拠点(地域災害医療センター)病院」指定
 - 2017 平成29年 1月 「ジャパンインターナショナルホスピタルズ(JIH)」選定
 - 3月 DMATカー運用開始
 - 11月 ドクターカー2台目運用開始
 - 2018 平成30年 6月 米盛病院 西棟完成
 - 11月 ハイブレン型血管撮影装置導入
 - 令和
 - 2020 令和 2年 2月 中央駅クリニック閉院
 - 5月 HCU 8床増床(機能転換)
 - 2021 令和 3年 2月 「病院機能評価更新認定」(3rdG:ver.2.0/一般病院2)
 - 2022 令和 4年 3月 整形外科米盛草牟田クリニック閉院
 - 4月 「与次郎米盛クリニック」開院

 - 2023 令和 5年 6月 ハイブレン型血管撮影装置導入



社会医療法人 緑泉会

理念

まわりの人たちの幸せな笑顔が、私たち職員の喜びです。

基本方針

- 整形外科と救急科の専門性を真から追求し、心の通い合う高度・良質の医療をめざします。
- 患者様の意思を尊重し、わかりやすく説明して、心からの満足を得られるように努力します。
- 『和』をもって、明るく、楽しく、夢のある職場づくりをめざします。

クレド《信条》

緑泉会は、チームアプローチを基に医療・介護の専門性を真から追求し、最高の医療技術と感動サービスを提供する事を最も大切な使命と心得ています。

私たちは、安全で安心できる良質な医療・介護を提供し、患者様やご家族の皆様からご満足いただけるように、持てる全ての力を最大限に発揮し、信頼関係を築きます。

私たちは、お一人おひとりの患者様の人権を尊重するとともに、常に感謝の心を持ちホスピタリティの心を高め、豊かな感性で温かい癒しの空間を提供する事により、地域の皆様幸せな笑顔をいただくことを最大の喜びとします。

シンボルマーク

緑の輪は身体の健康を、青の輪は精神の健康を、

赤の輪は生命の象徴を表現しています。

これは心身ともに健康になっていただきたいという私どもの願いです。

白い鳥は、医療技術・看護など全ての面において

常に向上を目指すスタッフの姿勢を現したものです。

社会医療法人緑泉会 米盛病院 概要

名称 米盛病院
 開設者 社会医療法人緑泉会
 事業開設年月日 1969年12月10日
 院長 米盛公治
 所在地 〒890-0062 鹿児島市与次郎一丁目7番1号
 TEL 099-230-0100 FAX 099-230-0101
 病床数 病床数506床
 (一般306床(うちICU10床、HCU16床)、回復期200床)
 標榜診療科 整形外科、救急科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、
 血管外科、消化器外科、形成外科、内科、循環器内科、
 呼吸器内科、消化器内科、糖尿病内科、心療内科、
 放射線科、産婦人科、リハビリテーション科、
 リウマチ科、小児科、麻酔科
 診療案内 【受付時間】
 月～土曜 8:30～17:00
 (土曜は「胎児診断外来・遺伝カウンセリング」のみ受診可)
 【診療時間】
 午前 9:00～12:30/午後 14:00～18:00
 ※救急は24時間・365日受け付けています。

■ 案内図



社会医療法人緑泉会 与次郎米盛クリニック 概要

名称 与次郎米盛クリニック
 開設者 社会医療法人緑泉会
 事業開設年月日 2022年4月1日
 院長 横峯佑爾
 所在地 〒890-0062 鹿児島市与次郎一丁目7番1号
 TEL 099-255-1500 FAX 099-255-1700
 標榜診療科 内科、外科、整形外科、リハビリテーション科
 診療案内 【受付時間】
 月～金曜 8:30～17:00
 土曜 8:30～12:00
 (土曜は「整形外科」のみ受診可、診療は午前のみ)
 【診療時間】
 午前 9:00～12:30/午後 14:00～18:00



■ アクセス

鹿児島空港	車で約45分	「九州縦貫自動車道」経由		
	空港リムジンバス ^{※1} で約60分		与次郎一丁目	徒歩で約2分
鹿児島中央駅 [東口]	車で約15分	「中洲通り」経由		
	鹿児島市営バスで約15分	東15番のりば 16番線 鴨池港・文化ホール線 27番線 県庁・与次郎線	与次郎一丁目	徒歩で約2分
	鹿児島交通バスで約15分	東15番のりば 32-1番線 鴨池港行き	共月亭・米盛病院前	徒歩で約1分

※1. 空港リムジンバスは社会情勢により、減便している場合がございます。詳しくは運営会社にお問い合わせください。
 ※所要時間はおよその目安です。





一秒を救う。一生につなぐ。

